

博士論文の審査結果の要旨

専攻	保健医療学専攻	分野	作業療法学分野
学籍番号	14S3009	院生氏名	雄鹿 賢哉
通学キャンパス	東京青山キャンパス		
論文題目	音楽聴取における生演奏の有用性と評価手法の検討		
審査結果（枠で囲む）	<div>合格</div> 不合格		
<div><審査結果の要旨></div> <div>1. 主論文について</div> <p>本研究は、音楽聴取中または音楽聴取後における対象者の観察・評価手法について検討し、①気分の変化、②聴取中の笑顔表出、③聴取後の活動量について、生演奏と録音演奏の違いを明らかにした。なお、生演奏はエレクトーンによる生演奏、録音演奏は生演奏をデジタル録音した CD 聴取とした。また、研究方法は、国際医療福祉大学研究倫理委員会の承認（承認番号 14-Ig-43）を得て実施した。</p> <p>研究 1 は、研究協力者の健常者 31 名中条件に合致した 11 名（男性 2 名、女性 9 名、45.6±19.5 歳）を対象に①気分の変化、②聴取中の笑顔表出について分析した。気分の変化は、主観的評価として先行研究より The MOOD Inventory（MOOD）を用い、生演奏に聴取後の有意な「爽快感」の増大、「抑うつ感」の低下を認めた。笑顔表出は、表情検出ソフト（産業技術総合研究所）を用い笑顔を非侵襲的かつ定量的に測定し、生演奏中の曲間に笑顔表出パターンを確認した。</p> <p>研究 2 は、研究協力者の健常者 31 名中条件に合致した 5 名（男性 1 名、女性 4 名、47.6±18.9 歳）を対象にアクティウォッチ 2 を用いて③聴取後の活動量を分析した。その結果、生演奏と録音演奏間に有意差を認めなかった。</p> <p>本研究の新奇性は、生演奏による演奏者（セラピスト）と対象者間の相互交流を定量的に測定する可能性を示したことにより、音楽を用いた対人交流を促進する介入の評価に貢献する研究として評価できる。</p> <div>2. 審査経過について</div> <p>審査に先立ち副論文の審査を行い、必要要件を満たしていることを確認した。審査会は 2 回実施し、初回審査で用語の定義、測定プロトコルの明確化、論文題目と研究内容との整合性、結果と考察および研究限界の整合性について指摘し論文の修正を求めたところ適切に修正した。更に 2 回の審査会后、論文内容の修正を求め適切に修正したことを確認した。</p> <div>3. 口頭試問の結果</div> <p>口頭試問においても研究内容について適切に回答した。</p> <p>以上の結果から、審査会の審査員全員は本論文が著者に博士（保健医療学）の学位を授与するに十分な価値があるものと認めた。</p>			
論文審査担当者	<div>主 査 谷口 敬道</div> <div>副 査 藤田 郁代</div> <div>副 査 後藤 純信</div>		